

ライフセービング競技規則 2020年版（2020.06.04版）

改正点一覧

ライフセービング競技規則<2019年版>から、
2020年6月1日に公開（同年6月4日更新）された<2020年版（2020.06.04版）の改正点をまとめました。

今回の改定では、原則としてILS発行の競技規則である、「International Life Saving Federation Competition Rule Book 2019 Edition (Revised February 2020)」をもとに、これを日本語訳しています。

従来では、日本語翻訳と同時に国内向け競技規則として文章構成や掲載箇所のアレンジを行っていましたが、今回の<2020年版>では、原則としてILSの原文通りの構成としています。そのため、ILSの原文通りでは日本国内においては競技運営に適さない項目もあり、この場合は本文の脚注として補足を入れています。

また、今までと文章構成が変わっていることから、<2019年版>と比べて文章や言い回しも変わっている項目もありますが、次ページからの改正点一覧では、若干の文章又は言い回しの変更はあるが新旧で意味合いが同じである、といったものは割愛しています。

種目別の規則（ルール）や資器材の取り扱いが変わり、競技の進行に大きく影響があるポイントを、**赤文字**でハイライトしています。

節番号	箇所	種別	カテゴリ	2020年版変更点の詳細	2019年版の表記など	備考
	全編にわたり	追加	【脚注】について	【脚注】が付されている項目やページがある。ILS原文の補足説明、JLAによる解釈、JLA主催競技会での取り扱い、などを明記している。以下では脚注は割愛する。		
2.17.1.(b)	抗議の種類	新規	抗議の対象	(b)の説明が追加。 競技者又はチームが直接干渉を受けた場合を除き、同一競技内の他の競技者又はチームの行為に対するどんな抗議も受け付けられない。例えば、オフィシャルがある競技者又はチームに対し何らかの行動を起こした又は起こさなかったにもかかわらず、同一レースで直接干渉を受けてない限り、別の競技者又はチームは抗議することができない。		
2.17.2.(d)	抗議の申し立て	追加	ビーチフラッグスの抗議と上訴	ビーチフラッグス競技における抗議と上訴の手順が追加。 *第4章4.10.11.にも同じ記載がある。		
3.3.2.(e)	マネキンを選ぶ(キャリア)	新規	マネキンの扱い	(e)の説明(注意1, 注意2含む)が新しく追加。 競技者とマネキンは一体とみなし、どちらかは水面にとどまっていなければならない。 注意1:「水面」とは静水状態のプールの水平面を意味する。 注意2:競技者及びマネキンが共に「水面下」であれば、失格となる。		
3.3.2.(f)	マネキンを選ぶ(キャリア)	修正	マネキンの扱い	マネキンを選ぶ際、競技者の身体によってマネキンを覆う又は身体の下で運ぶ行為は引き続き違反となるが、その判定基準が「マネキンの頭部」に変更。さらに、「競技者の身体」の具体的な部位が明記。	3.3.2 g)に相当。(P.51)	
3.3.2.(h)	マネキンを選ぶ(キャリア)	追加	マネキンの扱い	マネキンリレーにおける、「マネキンを選ぶ(キャリア)」の規則が適用されない範囲に、フィニッシュゾーン(=第4競技者区間のフィニッシュ壁/線から5mの範囲)が追加。しかし、マネキンの受け渡し時を含めて常時マネキンに触れていることが改めて言及されている。		
3.3.2.(h)下の注意:	マネキンを選ぶ(キャリア)	新規	マネキンの扱い(以前)	マネキンの顔を上に向けて運ぶこと、マネキンの顔を水面に対して90度を超過して傾くこと、これらの規則が排除されたことの強調説明が追加。	3.3.2 d)とe)に相当。(P.51)	
3.3.3.	マネキンを引っ張る(トウ)	修正	ピックアップゾーンの範囲	レスキューチューブを用いて引っ張る(トウ)前に、マネキンにレスキューチューブを正しく巻く際の基準となる距離(ライン)が、「10m」に変更。	[5m]	
3.3.3.(b)	マネキンを引っ張る(トウ)	新規	マネキンの確保	(b)の説明が新しく追加。 マネキンの頭部が10mラインを通過していなければ、競技者は10mピックアップゾーン内に戻って、マネキンを確保し直してもよい。		
3.3.3.(d)	マネキンを引っ張る(トウ)	修正	マネキンの扱い	10mピックアップゾーンを越えた後、「マネキンの顔が水面の上にあるように」正しく確保するように変更。		
3.3.3.(e)	マネキンを引っ張る(トウ)	修正	レスキューチューブの紐	10mピックアップゾーンを越えた後、レスキューチューブの紐は「完全に」伸ばされていないと変更。 *レスキューチューブの紐を伸ばすこと自体に変更はない。また紐を伸ばした状態の判定の基準となる距離(ライン)は、10mから変更なし。	「十分に」が変更。「できるだけ速やかに」は削除。	
3.3.3.(f)	マネキンを引っ張る(トウ)	修正	マネキンの扱い	3.3.3.(b)と(d)の説明に合うように変更。 ~レスキューチューブがマネキンの一方の腕の下からずれても、10mラインで「正しく確保」されていて、マネキンの顔が水面より上であれば失格にならない。	3.3.3 g)に相当。(P.52)	
3.3.3.(g)	マネキンを引っ張る(トウ)	新規	レスキューチューブの紐	(g)の説明が新しく追加。 レスキューチューブの紐がマネキンの回りに巻き付いて紐が短くなってはならないこと。		
3.3.3.(h)	マネキンを引っ張る(トウ)	新規	マネキンの扱い	(h)の説明が新しく追加。 マネキンがレスキューチューブの中で回転してもよく、10mラインにおいて正しく確保されていればマネキンの頭を先にして運ぶ必要はない。但しどちらも、マネキンの顔が水面より上であることが前提。		
3.3.3.(h)下の注意:	マネキンを引っ張る(トウ)	新規	マネキンの扱い(以前)	マネキンの顔を上に向けて運ぶこと、マネキンの顔を水面に対して90度を超過して傾くこと、マネキンが回転すること、マネキンの頭部が下を向くこと、これらの規則が排除されたことの強調説明が追加。		

節番号	箇所	種別	カテゴリ	2020年版変更点の詳細	2019年版の表記など	備考
3.3.4.(a)	マネキンハンドラー	修正	・ マネキンハンドラーの人数 ・ 自チーム以外のハンドラー	・ (競技者1人あたり) マネキンハンドラーは「1人」に変更。 ・ 「チーフレフリーが承認すれば、チームメンバー以外で当該競技会に然るべき立場で登録している者がハンドラーを務めてもよい。」が追加。	特に言及されていない。	
3.3.4.(b)	マネキンハンドラー	追加	マネキンの持ち方	マネキンハンドラーは「手を使って」マネキンを保持すること、が追加。	特に言及されていない。	
3.8.2.(b)	マネキンキャリア	修正	マネキンの設置位置	マネキンの設置位置となる基準が、胸部中央ラインの「上端」が25mラインにくるように置かれる、に変更。	胸部中央の「横ライン」	
3.9.2.(b)	レスキューメドレー	修正	マネキンの設置位置	マネキンの設置位置となる基準が、胸部中央ラインの「上端」が17.5mラインにくるように置かれる、に変更。	胸部中央の「横ライン」	
3.11.	マネキントウ・ウィズフィン	削除	コース図	レスキューチューブを用いて引っ張る(トウ)前に、マネキンにレスキューチューブを正しく巻く際の基準となる距離(ライン)が、10mに変更のため。	コース右側の5mラインを削除	
3.11.1.	マネキントウ・ウィズフィン	修正	ピックアップゾーンの範囲	レスキューチューブを用いて引っ張る(トウ)前に、マネキンにレスキューチューブを正しく巻く際の基準となる距離(ライン)が、「10m」に変更。	[5m]	
3.11.2.(b)	マネキントウ・ウィズフィン	修正	・ マネキンハンドラーの人数 ・ 自チーム以外のハンドラー ・ マネキンハンドラーの入水	・ (競技者1人あたり) マネキンハンドラーは「1人」に変更。 ・ 「チーフレフリーが承認すれば、チームメンバー以外で当該競技会に然るべき立場で登録している者がハンドラーを務めてもよい。」が追加。 ・ 「競技中、マネキンハンドラーは故意にプールに入ってはいけない。」が追加。		
3.11.2.(c)	マネキントウ・ウィズフィン	追加	レスキューチューブのクリップ	「レスキューチューブのクリップは、マネキンに装着するまで外したままにしておく。」が追加。		
3.11.2.(e)	マネキントウ・ウィズフィン	修正	・ ピックアップゾーンの範囲 ・ マネキンの確保	・ レスキューチューブを用いて引っ張る(トウ)前に、マネキンにレスキューチューブを正しく巻く際の基準となる距離(ライン)が、「10m」に変更。 ・ マネキンの頭部が10mラインを通過していなければ、競技者は10mピックアップゾーン内に戻って、マネキンを確保し直してもよい。	[5m]	
3.11.2.(f)	マネキントウ・ウィズフィン	修正	レスキューチューブの紐	レスキューチューブの紐は、マネキンの頭頂部が10mラインを通過するまでに、「完全に」伸びた状態にしなければならない、に変更。 *レスキューチューブの紐を伸ばすこと自体に変更はない。また紐を伸ばした状態の判定の基準となる距離(ライン)は、10mから変更なし。	「十分に」が変更。「できるだけ速やかに」は削除。	
3.11.2.(g)	マネキントウ・ウィズフィン	修正	マネキンの扱い	3.3.3.(b)と(d)の説明に合うように変更。 10mラインにおいてレスキューチューブが「正しく付けられ」、マネキンの顔が水面より上にあれば、競技者がマネキンを引っ張っている間に一方の腕からレスキューチューブがずれても失格にはならない。	3.11(4)⑥に相当。	
3.11.2.(h)	マネキントウ・ウィズフィン	新規	レスキューチューブの紐	(h)の説明が新しく追加。 レスキューチューブの紐がマネキンの回りに巻き付いて紐が短くなってはならないこと。		
3.11.2.(i)	マネキントウ・ウィズフィン	新規	マネキンの扱い	(i)の説明が新しく追加。 マネキンがレスキューチューブ内で回転しても、マネキンの顔が水面より上に残っている限り、競技者は失格にならない。マネキンが10mライン時点で正しく確保され、且つ顔が水面より上に残っていれば、マネキンの頭を先にして運ぶ必要はない。		
3.11.2.(n)	マネキントウ・ウィズフィン	新規	レスキューチューブの不具合	(n)の説明が新しく追加。 レスキューチューブに技術的な不具合があるとチーフレフリーが判断した場合に再スタートすることについて言及(諸条件あり)。		
3.12.	スーパーライフセーバー	削除	コース図	レスキューチューブを用いて引っ張る(トウ)前に、マネキンにレスキューチューブを正しく巻く際の基準となる距離(ライン)が、10mに変更のため。	コース右側の5mラインを削除	
3.12.1.	スーパーライフセーバー	修正	ピックアップゾーンの範囲	レスキューチューブを用いて引っ張る(トウ)前に、マネキンにレスキューチューブを正しく巻く際の基準となる距離(ライン)が、「10m」に変更。	[5m]	
3.12.2.(c)	スーパーライフセーバー	修正	マネキンの設置位置	運ぶマネキンの設置位置となる基準が、(胸部中央)横ラインの「上部(上端)」が25mラインにくるように置かれる、に変更。	胸部中央の「横ライン」	

節番号	箇所	種別	カテゴリ	2020年版変更点の詳細	2019年版の表記など	備考
3.12.2.(d)	スーパーライフセーバー	修正	・マネキンハンドラーの人数 ・自チーム以外のハンドラー ・マネキンハンドラーの入水	・(競技者1人あたり)マネキンハンドラーは「1人」に変更。 ・「チーフレフリーが承認すれば、チームメンバー以外で当該競技会に然るべき立場で登録している者がハンドラーを務めてもよい。」が追加。 ・「競技中、マネキンハンドラーは故意にプールに入ってはいけない。」が追加。		
3.12.2.(h)	スーパーライフセーバー	修正	・ピックアップゾーンの範囲 ・マネキンの確保	・レスキューチューブを用いて引っ張る(トウ)前に、マネキンにレスキューチューブを正しく巻く際の基準となる距離(ライン)が、「10m」に変更。 ・マネキンの頭部が10mラインを通過していなければ、競技者は10mピックアップゾーン内に戻って、マネキンを確保し直してもよい。	[5m]	
3.12.2.(i)	スーパーライフセーバー	修正	レスキューチューブの紐	レスキューチューブの紐は、マネキンの頭頂部が10mラインを通過するまでに、「完全に」伸びた状態にしなければならない、に変更。 *レスキューチューブの紐を伸ばすこと自体に変更はない。また紐を伸ばした状態の判定の基準となる距離(ライン)は、10mから変更なし。	「十分に」に変更。「できるだけ速やかに」は削除。	
3.12.2.(j)	スーパーライフセーバー	修正	マネキンの扱い	3.3.3.(b)と(d)の説明に合うように変更。 10mラインにおいてレスキューチューブが「正しく付けられ」、マネキンの顔が水面より上にあれば、競技者がマネキンを引っ張っている間に一方の腕からレスキューチューブがずれても失格にはならない。	3.12(4)⑨に相当。	
3.12.2.(k)	スーパーライフセーバー	新規	レスキューチューブの紐	(k)の説明が新しく追加。 レスキューチューブの紐がマネキンの回りに巻き付いて紐が短くなってはならないこと。		
3.12.2.(l)	スーパーライフセーバー	新規	マネキンの扱い	(l)の説明が新しく追加。 マネキンがレスキューチューブ内で回転しても、マネキンの顔が水面より上に残っている限り、競技者は失格にならない。マネキンが10mライン時点で正しく確保され、且つ顔が水面より上に残っていれば、マネキンの頭を先にして運ぶ必要はない。		
3.12.2.(n)	スーパーライフセーバー	新規	レスキューチューブの不具合	(n)の説明が新しく追加。 レスキューチューブに技術的な不具合があるとチーフレフリーが判断した場合に再スタートすることについて言及(諸条件あり)。		
3.12.3.	スーパーライフセーバー	修正	失格内容の補足	DQ24の「レスキューチューブをマネキンに巻きつける際、プールの付属品(例えば、レンローブ、階段、排水管、水中ホッケーの備品等)を補助として用いた場合。」が失格内容には記載が無いが、後述のプール競技失格コードの一覧には該当項目に含まれるため、同内容及びDQコードはスーパーライフセーバーにも該当する。	3.12(5)⑩に相当。(P.71)	ILS原文も同様の為、掲載漏れと思われる。
3.14.	マネキンリレー	修正	コース図	・コース中央のチェンジオーバーゾーンの幅が「5m」に変更。 ・コース左側が「スタート/フィニッシュゾーン」に変更。	・「4m」 ・「スタートゾーン」	
3.14.1.(a)	マネキンリレー	修正	チェンジオーバーゾーン	「22.5m」地点から「27.5m」地点の間の「5m」のチェンジオーバーゾーン	「23m」地点から「27m」地点	
3.14.1.(c)	マネキンリレー	修正	チェンジオーバーゾーン	「72.5m」地点から「77.5m」地点のチェンジオーバーゾーン	「73m」地点から「77m」地点	
3.14.1.	マネキンリレー	削除		フィニッシュゾーンは「マネキンを運ぶ(キャリア)」の規則が適用されない。	3.14(4)⑩の「注意:」を削除。	
3.16.	メドレーリレー	削除	コース図	第3競技者がレスキューチューブを掴む範囲が10mに変更のため。	コース右側の5mラインを削除	
3.16.1.(a)	メドレーリレー	修正	第3競技者の動き	溺者役は「10m」ラインを通過する前に	「5m」ラインを越える前に	
3.16.1. 最初の説明, (d), (e)	メドレーリレー	修正	第3競技者の動き	レスキューチューブ「及び/又はクリップ」を掴むこと。 *クリップ部分が追加	レスキューチューブの本体を掴まなければならない(紐や「クリップ」の部分掴んではならない)。	
3.16.2.(d)	メドレーリレー	追加	第3, 第4競技者の動き	「溺者役の頭頂部が10mラインを越えていなければ、溺者役を再度確保するために10mのチェンジオーバーゾーンに戻ってもよい。」が追加。		
3.17.1.(c)	ブルライフセーバーリレー	追加	第3競技者の動き	「第3競技者はマネキンの頭部が水面に浮上する前に、マネキンに触れてもよい(掴んではいけない)。」が追加。	第2→第3の引き継ぎ	
3.17.1.(h)	ブルライフセーバーリレー	追加	フィニッシュゾーン	「マネキンを運ぶ(キャリア)」の規則は、リレーの最後のフィニッシュゾーン内では適用されない。」が追加。		
3.17.1.(l) 注意:	ブルライフセーバーリレー	修正	男女の区間	「男女が泳ぐ順番はチームが選んでよい。」に変更。	主催者は、競技の男子区間と女子区間を決める抽選をしなければならない。	

節番号	箇所	種別	カテゴリ	2020年版変更点の詳細	2019年版の表記など	備考
4.5.1.	サーフレース	追加	・マスターズのブイの距離 ・フィニッシュ後の整列	・マスターズの距離 (280m) が追加。 ・フィニッシュ後の競技者の動線について追加。		
4.5.3.	サーフレース	追加	・パイロープの取り扱い ・オフィシャルの配置と役割	・「注意:」の一文が追加。 ・ジャッジ (オフィシャル) の配置について明記。		
4.5.コース図	サーフレース	修正	・ブイの距離 ・マスターズについて	・ブイまでの距離が「120m以上」、170m以上に変更。 ・マスターズ区分における注意書が追加。	4.5. (4)①約120m, 約170m	
4.6.3.	サーフチームレース	追加	・パイロープの取り扱い ・オフィシャルの配置と役割	・「注意:」の一文が追加。 ・ジャッジ (オフィシャル) の配置について明記。		
4.6.コース図	サーフチームレース	修正	・ブイの距離 ・マスターズについて	・ブイまでの距離が「120m以上」、170m以上に変更。 ・マスターズ区分における注意書が追加。		
4.7.1.(a)	レスキューチューブレスキュー	追加	パイロープの取り扱い	「注意:」の「2.」の一文が追加。		
4.7.1.(b)	レスキューチューブレスキュー	追加	パイロープの取り扱い	「注意:」の一文が追加。		
4.7.1.(d)	レスキューチューブレスキュー	追加	フィニッシュの注意点	「注意:」の一文が追加。		
4.7.コース図	レスキューチューブレスキュー	修正	ブイの距離	ブイまでの距離が「120m以上」に変更。		
4.8.1.注意: (1つめ)	レスキューチューブレス	追加	パイロープの取り扱い	「注意:」の一文が追加。		
4.8.コース図	レスキューチューブレス	修正	ブイの距離	ブイまでの距離が「120m以上」に変更。		
4.9.1.	ランスイムラン	追加	パイロープの取り扱い	「注意:」の一文が追加。		
4.9.コース図	ランスイムラン	修正	ブイの距離	ブイまでの距離が「120m以上」に変更。		
4.10.11.	ビーチフラッグス	追加	ビーチフラッグスの抗議と上訴	ビーチフラッグス競技における抗議と上訴の手順が追加。 *第2章2.17.2.(d)にも同じ記載があり、その重複記載である。		
4.10.コース図	ビーチフラッグス	追加	マスターズの距離	マスターズの距離 (15m) が追加。		
4.11.1.	ビーチスプリント	追加	マスターズの距離	マスターズの距離 (70m) が追加。		
4.11.2.	ビーチスプリント	追加	スターティングブロック	「人工的なスターティングブロックの使用は許可されないが、」が追加。		
4.11.3.	ビーチスプリント	追加	マスターズの距離	マスターズの距離 (70m) が追加。		
4.11.コース図	ビーチスプリント	追加	マスターズの距離	マスターズの距離 (70m) が追加。		
4.12.1.	ビーチラン - 2km及び1km	修正	・コースの周回距離 ・オフィシャルの配置	・基本となるコースが片道250mに変更。 *状況に応じて、片道500mにしてもよい。 ・ジャッジ (オフィシャル) の配置について明記された。	片道500m	
4.12.3.	ビーチラン - 2km及び1km	追加	・走行レーン ・逆方向のコース	・走行レーンにおいて、「海に近い側のレーンは、スタート/フィニッシュラインから走る区間である。」ことが追加。 ・「注意:」が追加。コースを逆方法に走らせる場合の説明。		
4.12.コース図	ビーチラン - 2km及び1km	修正	周回コース	基本となるコースが片道250mであるため、それに合うコース図に変更。		
4.13.	3×1kmビーチランリレー	修正	競技人数の変更	「3」×1kmビーチランリレー	「2」×1kmビーチランリレー	
4.13.1.	3×1kmビーチランリレー	修正	競技人数の変更	「2人」から「3人」に競技者人数が修正された。伴って、3人分の競技説明の記述に修正された。		
4.13.1.	3×1kmビーチランリレー	修正	・コースの周回距離 ・オフィシャルの配置	・基本となるコースが片道250mに変更。 *状況に応じて、片道500mにしてもよい。 ・ジャッジ (オフィシャル) の配置について明記。	片道500m	
4.13.2.	3×1kmビーチランリレー	追加	・走行レーン ・逆方向のコース	・走行レーンにおいて、「海に近い側のレーンは、スタート/フィニッシュラインから走る区間である。」ことが追加。 ・「注意:」が追加。コースを逆方法に走らせる場合の説明。		
4.13.コース図	3×1kmビーチランリレー	修正	周回コース	基本となるコースが片道250mであるため、それに合うコース図に変更。		
4.14.1.	ビーチリレー	追加	マスターズについて	マスターズの手順 (競技人数、距離、など) が追加。		
4.14.コース図	ビーチリレー	追加	マスターズの距離	マスターズの距離 (70m) が追加。	図の下の表	
4.15.2.	サーフスキーレース	修正	ブイの距離	・2個のブイは「300m以上」。 ・マスターズの距離 (250m以上) が追加。 ・3個のブイで「弧を描くようにする」	・「約300m」 ・(新規追加) ・3個のブイで「三角形」	

節番号	箇所	種別	カテゴリ	2020年版変更点の詳細	2019年版の表記など	備考
4.15.3.(d)	サーフスキーレース	追加	自チーム以外のハンドラー	「チーフレフリーが承認すれば、チームメンバー以外で当該競技会に然るべき立場で登録している者がハンドラーを務めてもよい。」が追加。		
4.15.3.(e)	サーフスキーレース	追加	ハンドラーの遵守事項	ハンドラーについて、説明が追加。		
4.15.コース図	サーフスキーレース	修正	・ブイの距離 ・マスターズについて	・ブイまでの距離が300m"以上"に変更。 ・マスターズのブイの距離（250m以上）が追加。		
4.16.6.	サーフスキーリレー	追加	マスターズについて	マスターズ区分におけるコースと手順が追加。		
4.16.コース図	サーフスキーリレー	修正	・ブイの距離 ・マスターズについて	・ブイまでの距離が250m"以上"に変更。 ・マスターズ区分における陸上の設置例が追加。		
4.17.2.	ボードレース	修正	・ブイの距離 ・マスターズの距離	・「250m以上」。 ・マスターズの距離について追加。 *オープンと同じ距離。 ・3個のブイで「弧を描くようにする」	・「約250m」 ・（新規追加） ・3個のブイで「三角形」	
4.17.コース図	ボードレース	修正	・ブイの距離 ・マスターズについて	・ブイまでの距離が250m"以上"に変更。 ・マスターズの距離について追加。 *オープンと同じ距離。		
4.18.6.	ボードリレー	追加	マスターズについて	マスターズ区分におけるコースと手順が追加。		
4.18.コース図	ボードリレー	修正	・ブイの距離 ・マスターズについて	・ブイまでの距離が250m"以上"に変更。 ・マスターズ区分における陸上の設置例が追加。		
4.19.1.(b)注意2.	ボードレスキュー	追加	ブイロープの取り扱い	「注意：」の「2.」一文が追加。		
4.19.コース図	ボードレスキュー	修正	ブイの距離	ブイまでの距離が120m"以上"に変更。		
4.20.1.ハンドラー	オーシャンマン/オーシャンウーマン	修正	自チーム以外のハンドラー	「チーフレフリーが承認すれば、チームメンバー以外で当該競技会に然るべき立場で登録している者がハンドラーを務めてもよい。」が追加。		
4.20.2.	オーシャンマン/オーシャンウーマン	修正	・ブイの距離 ・マスターズのブイの距離	・スイムブイまでの距離が120m"以上"に変更。 ・マスターズ区分を実施する場合の注意書き（海況によりブイが規定の位置より遠くなる場合）が追加。	「約120m」	
4.21.	オーシャンM	新規	新種目の追加	新競技種目「オーシャンM」が追加。		
4.22.	オーシャンマン/オーシャンウーマン勝ち残りバージョン	新規	新種目の追加	2019年版において「オーシャンマン/オーシャンウーマン」内で説明されていた「勝ち残りバージョン」が、個別の競技種目として記載。	4.20 ■勝ち残り方式オーシャンマン/オーシャンウーマン (P.150)	
4.23.1.	オーシャンマン/オーシャンウーマンリレー	追加	マスターズについて	マスターズ競技の説明（競技者数、コース）が追加。		
4.23.5.	オーシャンマン/オーシャンウーマンリレー	追加	マスターズについて	マスターズ区分におけるコースと手順が追加。		
4.23.コース図	オーシャンマン/オーシャンウーマンリレー	修正	・ブイの距離 ・ボードブイ ・マスターズについて	・スイムブイまでの距離が120m"以上"に変更。 ・ボードブイの数が変更。 ・マスターズ区分における陸上の設置例が追加。		
4.24.	オーシャンMライフセーバーリレー	新規	新種目の追加	新競技種目「オーシャンMライフセーバーリレー」が追加。		
SERC：全般	サンプル採点シート	修正	採点の注意	文章が欠落している。以下を補足追記する。 高度な技術および判定を必要とする救助行為に「対しては、高い得点が与えられる。」		
章扉	付録A. 短水路プール競技	修正	元となる競技規則	ILSの正式版に準拠。 ILS Competition Rule Book, Short Course Pool Events,2020 Edition	Short Course Pool Events,2015-2019 Edition, Pilot version 1.0 Addendum - May.31,2017	
A.2.	プール競技種目	追加	種目の追加	種目と距離の追加。 ・メドレーリレー - 4×50m *4×25mは変更なし ・プールライフセーバーリレー - 4×25m, 4×50m		
A.2.2.3.	マネキンキャリアー（短水路）	修正	マネキンの設置位置	25mの場合のマネキン設置位置が変更。 （胸部中央ラインの「上端」が12.5mラインにくるように置かれる。）	胸部中央の「横ライン」	
A.2.3.2.	レスキューメドレー（短水路）	修正	マネキンの設置位置	25mの場合のマネキン設置位置が変更。 （胸部中央ラインの「上端」が12.5mラインにくるように置かれる。）	胸部中央の「横ライン」	
A.2.5.1.	マネキントウ・ウィズフィン（短水路）	修正	ピックアップゾーンの範囲	「10m」	「5m」	
A.2.6.1.	スーパーライフセーバー（短水路）	修正	ピックアップゾーンの範囲	「10m」	「5m」	

節番号	箇所	種別	カテゴリ	2020年版変更点の詳細	2019年版の表記など	備考
A.2.6.2.	スーパーライフセーバー（短水路）	修正	ピックアップゾーンの範囲	「10m」	「5m」	
A.2.7.1.(a)	マネキンリレー（短水路）	修正	チェンジオーバーゾーン	「10m」地点から「15m」地点の間の「5m」のチェンジオーバーゾーン	「10.5m」と「14.5m」マークの間	
A.2.7.1.(b)	マネキンリレー（短水路）	修正	チェンジオーバーゾーン	「35m」地点から「40m」地点のチェンジオーバーゾーン	「35.5m」と「39.5m」の間	
A.2.9.1.(a)	メドレーリレー（短水路）	修正	ピックアップゾーンの範囲	「10m」	「5m」	
A.2.9.1.(d), (e)	メドレーリレー（短水路）	修正	第3競技者の動き	レスキューチューブ「及び又はクリップ」を掴むこと。 *クリップ部分が追加	溺者役はレスキューチューブの本体を掴まなければならない - 紐やクリップではいけない。	
A.2.9.2.	メドレーリレー（短水路）	新規	新種目の追加	4×50m短水路、の説明が追加。		
A.2.10.	プールライフセーバーリレー（短水路）	新規	新種目の追加	プールライフセーバーリレー - 4×25m, 4×50m短水路、の説明が追加。		
付録B.	ジュニア/ユース競技規則	新規	・ジュニア競技規則 ・ユース競技規則	ジュニア競技, ユース（中学生）競技, ユース（高校生）競技における, 一般規則と競技別規則を定めた。 ●一般規則 年齢区分, ハンドラー及びマネキンハンドラー, 器材, 競技者数の制限 ●競技種目 障害物スイム - 50m ジュニアチューブスイム - 50m レスキューチューブトウ - 100m レスキューチューブリレー - 4×50m ウェーディングレース ランスイムラン ニッパーボードレース ニッパーボードリレー タップリンリレー		

節番号	箇所	種別	カテゴリ	2020年版変更点の詳細	2019年版の表記など	備考
	全編にわたり	追加	【脚注】について	【脚注】が付されている項目やページがある。ILS原文の補足説明、JLAによる解釈、JLA主催競技会での取り扱い、などを明記している。以下では脚注は割愛する。		
巻頭 (page. v)	ライフセービングとスポーツ	新規		ライフセービングスポーツの位置付け等について触れた「ライフセービングとスポーツ」の項が追加。		
巻頭 (page. vii)	用語解説	新規		「用語解説」の項が追加。		
1., 1.1., 1.2., 1.3., 1.4.	第1章 ILSとJLA	新規		ILSの歴史、組織についての解説が追加。		
2.	共通競技総則	追加	用語使用の制限	ILSの同意がなければ用いることができない用語が14個に追加。	3個のみ「ILS」「World」「RESCUE」	
2.1.	ILS認定競技会	削除		【脚注】に移動。	2.1.2 JLA認定競技会の全文を削除。(P.7)	
2.2.1.(b)	各種委員会及びセーフティオフィサー	修正	名称の変更	「競技」委員会	「大会」委員会	
2.2.1.(d)	各種委員会及びセーフティオフィサー	新規	新役職	「セキュリティオフィサー」が新しく追加。		
2.2.1.(e)	各種委員会及びセーフティオフィサー	新規	新委員会	「競技管理委員会」が新しく追加。		
2.3.(b)	競技会の安全	修正	名称の変更	「競技」委員会	「大会」委員会	
2.3.(d)	競技会の安全	追加	・海の状態の評価判断者 ・名称の変更	・チーフレフリー「又はセーフティオフィサー」に修正追加。 ・「競技」委員会	・チーフレフリー (のみ) ・「大会」委員会	
2.3.(e)	競技会の安全	追加	共通の言語	「注意：」が追加。		
2.4.	技術的安全及びテクニカルオフィシャル	修正	掲載箇所の変更	役職一覧の掲載箇所が変更。役職名もいくつか追加。 役職の一覧の最後に「注意：」が追加。		
2.4.1.(e)	テクニカルオフィシャル行動規範	追加	イベント固有のユニフォーム	「注意：」が追加。		
2.4.2.	ローカルイベントマネージャー	修正	名称の変更	・「ローカル」イベントマネージャー ・「競技」委員会	・イベントマネージャー ・「大会」委員会	
2.4.3.	ILSイベントディレクター	修正	名称の変更	「競技」委員会	「大会」委員会	
2.4.4.	チーフレフリー	修正	役割について	チーフレフリーの役割及びその説明の修正。		
2.4.5.	デビュティーフレフリー	修正	役割について	デビュティーフレフリーの役割及びその説明の修正。		
2.4.6.	エアレフリー (オーシャン)	修正	役割について	エアレフリー (オーシャン) の役割及びその説明の修正。		
2.4.7.	イベントディレクター (プール)	修正	役割について	イベントディレクター (プール) の役割及びその説明の修正。		
2.4.8.	セクショナルレフリー	修正	役割について	セクショナルレフリーの役割及びその説明の修正。		
2.4.9.	レフリースチュワード/ヘッドスコアラ	修正	・新役職 ・役割について	・「レフリースチュワード」が新しく追加。 ・レフリースチュワード/ヘッドスコアラの役割及びその説明の修正。		
2.4.10.	コンペティションリエゾンオフィサー	修正	・名称の変更 ・役割について	「コンペティションリエゾンオフィサー」に変更。 コンペティションリエゾンオフィサーの役割及びその説明の修正。	コンペティター・リエゾン・オフィサー	
2.4.11.	コーススーパーバイザー	新規	新役職	「コーススーパーバイザー」が新しく追加。		
2.4.12.	スクルーティニアコーディネーター	追加	新役職	「スクルーティニアコーディネーター」が新しく追加。 *スクルーティニアは継続		
2.4.13.	装置及び器材コーディネーター	新規	新役職	「装置及び器材コーディネーター」が新しく追加。		
2.4.14.	アナウンスコーディネーター及びコメントパネル	修正	・名称の変更 ・役割について	・「アナウンスコーディネーター及びコメントパネル」に変更。 ・アナウンスコーディネーター及びコメントパネルの役割及びその説明の修正。	コメンテーター及びアナウンスパネル	
2.4.15.1.	ジャッジ一般事項	新規	役割について	ジャッジ共通の役割及びその説明が新しく追加。		
2.4.15.2.	チーフジャッジ	修正	役割について	チーフジャッジの役割及びその説明の修正。		
2.4.15.3.	フィニッシュジャッジ	追加	役割について	(c)の具体的な対応が追加。(d), (e)が追加。		
2.4.15.4.	レーンジャッジ (IRB)	新規	新役職	IRB競技専用の「レーンジャッジ」の役割及びその説明が新しく追加。		
2.4.15.5.	レーンジャッジ (プールレスキュー)	追加	役割について	(b)の後、「注意：」の追加。 * (プールレスキュー) とはプール競技におけるレーンジャッジを指すと思われる		
2.4.15.6.	コースジャッジ	追加	役割について	陸上でのコースジャッジのほか、船上ジャッジとIRB競技におけるコースジャッジについての説明が追加。(d), (g), (h), (i), (j), (k)		
2.4.15.7.	スペシャリストジャッジ	新規	新役職	「スペシャリストジャッジ」が新しく追加。		
2.4.15.8.	電子機器スペシャリストジャッジ	新規	新役職	「電子機器スペシャリストジャッジ」が新しく追加。		
2.4.15.9.	計時ジャッジ	追加	役割について	計時ジャッジの役割及びその説明の修正。	2019年版では掲載がカットされていたが、役割等が変わったわけではない。従来のタイムキーパーに相当する。	

節番号	箇所	種別	カテゴリ	2020年版変更点の詳細	2019年版の表記など	備考
2.4.15.10.	記録ジャッジ	追加	役割について	記録ジャッジの役割及びその説明の修正。	2019年版では掲載がカットされていたが、役割等が変わったわけではない。従来のレコーダーに相当する。	
2.4.16.	スターター	修正	役割について	スターターの役割及びその説明の修正。		
2.4.17.	チェックスターター	修正	役割について	チェックスターターの役割及びその説明の修正。		
2.4.18.	マーシャル	修正	役割について	マーシャルの役割及びその説明の修正。		
2.4.19.	チェックマーシャル	新規	新役職	「チェックマーシャル」が新しく追加。		
2.4.20.	式典スチュワード	新規	新役職	「式典スチュワード」が新しく追加。		
2.4.23.	規律委員長	修正	名称の変更	「競技」委員会	「大会」委員会	
2.4.24.	規律委員	修正	名称の変更	「競技」委員会	「大会」委員会	
2.4.25.	セーフティオフィサー	新規	役割について	「セーフティオフィサー」が新しく追加。 * 2.2.1.(c)とは別に新しく明記されている。		
2.4.26.	エリアリスク管理オフィサー	新規	新役職	「エリアリスク管理オフィサー」が新しく追加。		
2.4.27.	パワークラフトコーディネーター	新規	新役職	「パワークラフトコーディネーター」が新しく追加。		
2.4.28.	ウォーターセーフティコーディネーター	新規	新役職	「ウォーターセーフティコーディネーター」が新しく追加。		
2.4.29.	ウォーターセーフティ要員	新規	新役職	「ウォーターセーフティ要員」が新しく追加。		
2.4.30.	コミュニケーションコーディネーター	新規	新役職	「コミュニケーションコーディネーター」が新しく追加。		
2.4.31.	医療/FAコーディネーター	新規	新役職	「医療/FAコーディネーター」が新しく追加。		
2.4.32.	コース統計係	新規	新役職	「コース統計係」が新しく追加。		
2.5.1.	世界記録	削除		(右記を参照)	2.5.1 b)の全文を削除。(P.19)	
2.5.1.(j)	世界記録	追加	施設の規格及び器材の仕様書	(iii)の説明が新しく追加。		
2.10.	服装等	修正	文言の修正	適切な「服装等」	適切な「水着」	
2.10.(b)	服装等	削除		(右記を参照)	2.10 b)の後ろ「注意:」を削除。(P.23)	
2.10.1.	競技用キャップ及びヘルメット	修正	名称の変更	「競技用」キャップ	「スイム」キャップ	
2.10.1.(b)	競技用キャップ及びヘルメット	追加	・競技者名 ・ハンドラーのキャップ着用	(b)の説明が新しく追加。		
2.10.2.	ベスト	追加	ハンドラーのベスト着用	「このとき、ハンドラーも視認性の高いベストを着用しないと警告を受ける。」が追加。 * P.39の上から4行目末尾	2.10.2 b)に相当する箇所。(P.25)	
2.10.5.	履物	追加	文言の修正	「1km及び2km」ビーチラン、及び「3×1km」ビーチランリレー 種目の距離が追加。	ビーチラン及びビーチランリレー	
2.10.6.(a)	ウェットスーツ	修正	ウェットスーツの着用許可	・ウェットスーツの着用許可は、大会実行委員会による許可はできず、チーフレフリーのみになった。 ・「水に入る競技種目、又は水に入る恐れのある場合に、競技者はウェットスーツの着用が勧められる。」が追加。	・チーフレフリー及び「大会委員会」は… ・(新規追加)	
2.10.6.(b)	ウェットスーツ	新規	水温16°C以上の場合	水温が16°Cより高い場合でもウェットスーツの着用が許可となる条件が追加された。		
2.10.6.(d)	ウェットスーツ	修正	文言の修正	13°C「未満」	13°C「以下」	
2.10.6.(f)	ウェットスーツ	新規	水温13°C未満の場合	「水温が13.0°C未満の際は、泳ぎが伴う競技を実施してはならない。」が追加。		
2.10.7.	クラゲ除けスーツ	新規	節の独立	クラゲ除けスーツの項目が「ウェットスーツ」から分離した。		
2.10.7.(a)	クラゲ除けスーツ	修正	クラゲ除けスーツの着用許可	クラゲ除けスーツの着用許可は、大会実行委員会による許可はできず、チーフレフリーのみになった。	チーフレフリー及び「大会委員会」は…	
2.10.7.(b)	クラゲ除けスーツ	修正	判断フローの明確化	チーフレフリーの許可を、大会実行委員会が承認するという判断フローが明確化した。		
(2019年版) 2.12	(2019年版) 【参考】 ナショナルチームの参加資格	削除		(右記を参照)	2.12の全文を削除。(P.28-29)	
(2019年版) 2.13	(2019年版) 個人及びクラブの参加資格	削除		(右記を参照)	2.13の全文を削除。(P.29-30)	

節番号	箇所	種別	カテゴリ	2020年版変更点の詳細	2019年版の表記など	備考
2.13.1.(d) (iii)	薬物ポリシー	修正	得点の集計	「競技会における総合優勝チームを決めるため、（個人及びチーム競技の第1位などに基づく）獲得メダル数又は得点の集計が行われる。主催者は、チームのメダル数又はポイントスコアの基本詳細を通知するものとする。」と修正。	チームの得点：チームの得点は、個人又はチーム種目におけるナショナルチーム又はクラブチームで獲得した得点全ての合計点である。	
2.15.1.	不正行為と懲罰	修正	用語の変更	「所属団体／クラブ」、に修正。	「クラブ」（のみ）	
2.15.2.	不正競争	修正	用語の変更	他の「団体／クラブ」の競技者として、他「団体／クラブ」又は、に修正。	「クラブ」（のみ）	
2.15.4.(b)	規律委員会	追加	競技会の限定	「当該競技会の」各出場チームの...、に修正。		
2.15.4.(j)	規律委員会	修正	調査のガイドライン	正式な「証拠規則」までは適用されないが、に修正。	「証拠法」	
2.15.4.(k)	規律委員会	修正	用語の変更	・評決の「告知」、に修正。 ・2ヶ所において、「所属団体／クラブ」、に修正。	・評決の「通知」 ・「クラブ」（のみ）	
2.16.	失格及びDNF	追加	一部種目の順位等の扱い	エリミネーション（除外）形式の一部種目の順位と点数配分の補足説明が追加。		
2.16.(a)	失格及びDNF	修正	DNF	DNFの説明が修正。	競技者が何らかの理由により競技を終了しなかった場合は、DNF (Did not finish) となる。競技結果にはその選手の順位、タイムを含めない。	
2.16.(b)	失格及びDNF	修正	用語の変更	・「競技会全体」、に修正。 ・「所属団体／クラブ」、に修正。	・「競技会全て」 ・「クラブ」（のみ）	
2.16.(c)	失格及びDNF	修正	用語の変更	「所属団体／クラブ」、に修正。	「クラブ」（のみ）	
2.17.	抗議と上訴	修正	抗議する相手（役職）	「チーフレフリー」に抗議することができ、に修正。	レフリー（チーフ／セクショナルなど）	
2.17.1.(a)	抗議の種類	追加	抗議について	「ペナルティーを科し得る」が追加。		
2.17.1.(b)	抗議の種類	新規	抗議の対象	(b)の説明が追加。 競技者又はチームが直接干渉を受けた場合を除き、同一競技内の他の競技者又はチームの行為に対するどんな抗議も受け付けないー例えば、オフィシャルがある競技者又はチームに対し何らかの行動を起こした又は起こさなかったにかかわらず、同一レースで直接干渉を受けてない限り、別の競技者又はチームは抗議することができない。		
2.17.2.(c)	抗議の申し立て	追加	制限時間の延長	「注意：」が追加。		
2.17.2.(d)	抗議の申し立て	追加	ピーチフラッグスの抗議と上訴	ピーチフラッグス競技における抗議と上訴の手順が追加。 *第4章4.10.11.にも同じ記載がある。		
2.17.3.(a)	抗議の裁定	追加	誤りの訂正	「注意：」が追加。		
2.17.3.(b)	抗議の裁定	追加	制限時間の延長	「注意：」が追加。		
2.17.3.(c)	抗議の裁定	修正	文言の修正	裁定が覆らない場合は「返金されない」。 *内容に変更なし	裁定が覆らない場合は「没収される」。	
2.17.3.(d)	抗議の裁定	追加	・証拠の提供 ・映像再生機器の補足	・「但し、抗議した時点で、信頼に足る明確に映った証拠と映像再生機器を準備する責任は抗議した側にある。」に修正。 ・「注意：」が追加。	しかし、ビデオ映像などを用いてチーフレフリーに抗議を行う場合、抗議する物は30分以内の映像にまとめ、講義内容の信憑性の証拠を提供（映像再生機器を含む）しなければならない。	
2.17.4.(h)	抗議の裁定	追加	・証拠の提供 ・映像再生機器の補足	・「但し、抗議した時点で、信頼に足る明確に映った証拠と映像再生機器を準備する責任は抗議した側にある。」に修正。 ・「注意：」が追加。	しかし、ビデオ映像などを用いてチーフレフリーに抗議を行う場合、抗議する物は30分以内の映像にまとめ、講義内容の信憑性の証拠を提供（映像再生機器を含む）しなければならない。	
	WORLD RECORD APPLICATION	新規	世界記録更新時の申請書	世界記録更新時の申請書を追加。		
3.1.	プール競技の一般規則	削除		レスキューチューブの扱い方は、関係する各競技種目の規則に、それぞれ明記されている。	3.1 m), n), o), p)を削除。(P.47-P.48)	
3.1.(f)	プール競技の一般規則	追加	テーピングの可否	「注意：」が追加。		
3.1.(n)	プール競技の一般規則	新規	器材の不調があった場合	(n)の説明が新しく追加。		
3.1.(o)	プール競技の一般規則	新規	落としたフィンの回収	(o)の説明が新しく追加。		
3.2.(a), (b)	スタート	新規	オフィシャルの動き	(a)と(b)の説明が新しく追加。		

節番号	箇所	種別	カテゴリ	2020年版変更点の詳細	2019年版の表記など	備考
3.2.注意	スタート	新規	スタートの注意点	「注意：」として3点が追加。		
3.2.1.(a)	飛込スタート	修正	足の指の置き方	少なくとも一方の足の指を「置き」	少なくとも一方の足の指を「掛け」	
3.2.1.(c)	飛込スタート	新規	スタートする位置	(c)の説明が新しく追加。		
3.3.1.	マネキンの浮上	修正	・適用の範囲 ・「マネキンを運ぶ」の判定	・「注意：1.」の2段落めに、マネキンの浮上の規則が適用される範囲（時点）の説明が追加。 ・「注意：1.」の3段落めに、「マネキンを運ぶ（キャリア）」の判定の説明が追加。 *3.3.1.自体の文章構成が大きく変わっているが、大きな内容の変更はない。		
3.3.2.(a)	マネキンを運ぶ（キャリア）	追加	マネキンの扱い	「水がマネキンの顔にかぶることは、ジャッジの基準ではない。」が追加。		
3.3.2.(e)	マネキンを運ぶ（キャリア）	新規	マネキンの扱い	(e)の説明（注意1、注意2含む）が新しく追加。 競技者とマネキンは一体とみなし、どちらかは水面にとどまっていなければならない。 注意1：「水面」とは静水状態のプールの水平面を意味する。 注意2：競技者及びマネキンが共に「水面下」であれば、失格となる。		
3.3.2.(f)	マネキンを運ぶ（キャリア）	修正	マネキンの扱い	マネキンを運ぶ際、競技者の身体によってマネキンを覆う又は身体の下で運ぶ行為は引き続き違反となるが、その判定基準が「マネキンの頭部」に変更。さらに、「競技者の身体」の具体的な部位が明記。	3.3.2 g)に相当。（P.51）	
3.3.2.(h)	マネキンを運ぶ（キャリア）	追加	マネキンの扱い	マネキンリレーにおける、「マネキンを運ぶ（キャリア）」の規則が適用されない範囲に、フィニッシュゾーン（＝第4競技者区間のフィニッシュ壁／線から5mの範囲）が追加。しかし、マネキンの受け渡し時を含めて常時マネキンに触れていることが改めて言及されている。		
3.3.2.(h)下の注意：	マネキンを運ぶ（キャリア）	新規	マネキンの扱い（以前）	マネキンの顔を上に向けて運ぶこと、マネキンの顔を水面に対して90度を超過して傾くこと、これらの規則が排除されたことの強調説明が追加。	3.3.2 d)とe)に相当。（P.51）	
3.3.2.	マネキンを運ぶ（キャリア）	削除		(右記参照)	3.3.2 d), e), f)を削除。（P.51）	
3.3.3.	マネキンを引っ張る（トウ）	修正	ピックアップゾーンの範囲	レスキューチューブを用いて引っ張る（トウ）前に、マネキンにレスキューチューブを正しく巻く際の基準となる距離（ライン）が、「10m」に変更。	「5m」	
3.3.3.(b)	マネキンを引っ張る（トウ）	新規	マネキンの確保	(b)の説明が新しく追加。 マネキンの頭部が10mラインを通過していなければ、競技者は10mピックアップゾーン内に戻って、マネキンを確保し直してもよい。		
3.3.3.(c)	マネキンを引っ張る（トウ）	修正	競技者の泳ぎ方	「仰向け、横向き、前向きで泳いでよく、」に修正。 *意図は同じ。	3.3.3 h)に相当。（P.52） 背泳ぎ、横泳ぎ、または平泳ぎをしてよく、	
3.3.3.(d)	マネキンを引っ張る（トウ）	修正	マネキンの扱い	10mピックアップゾーンを越えた後、「マネキンの顔が水面の上にあるように」正しく確保するように変更。		
3.3.3.(d)下の注意：	マネキンを引っ張る（トウ）	追加	ピックアップゾーンの範囲	ピックアップゾーンの範囲の変更についての強調説明。		
3.3.3.(e)	マネキンを引っ張る（トウ）	修正	レスキューチューブの紐	10mピックアップゾーンを越えた後、レスキューチューブの紐は「完全に」伸ばされていないと変更。 *レスキューチューブの紐を伸ばすこと自体に変更はない。また紐を伸ばした状態の判定の基準となる距離（ライン）は、10mから変更なし。	「十分に」が変更。「できるだけ速やかに」は削除。	
3.3.3.(f)	マネキンを引っ張る（トウ）	修正	マネキンの扱い	3.3.3.(b)と(d)の説明に合うように変更。 ～レスキューチューブがマネキンの一方の腕の下からずれても、10mラインで「正しく確保」されていて、マネキンの顔が水面より上であれば失格にならない。	3.3.3 g)に相当。（P.52）	
3.3.3.(g)	マネキンを引っ張る（トウ）	新規	レスキューチューブの紐	(g)の説明が新しく追加。 レスキューチューブの紐がマネキンの回りに巻き付いて紐が短くなってはならないこと。		
3.3.3.(h)	マネキンを引っ張る（トウ）	新規	マネキンの扱い	(h)の説明が新しく追加。 マネキンがレスキューチューブの中で回転してもよく、10mラインにおいて正しく確保されていればマネキンの顔を先にして運ぶ必要はない。但しどちらも、マネキンの顔が水面より上であることが前提。		

節番号	箇所	種別	カテゴリ	2020年版変更点の詳細	2019年版の表記など	備考
3.3.3.(h)下の注意：	マネキンを引っ張る（トウ）	新規	マネキンの扱い（以前）	マネキンの顔を上に向けて運ぶこと、マネキンの顔を水面に対して90度を越えて傾くこと、マネキンが回転すること、マネキンの頭部が下を向くこと、これらの規則が排除されたことの強調説明が追加。		
3.3.3.	マネキンを引っ張る（トウ）	削除		(右記参照)	3.3.3 c), d), e)を削除。(P.52)	
3.3.4.(a)	マネキンハンドラー	修正	・マネキンハンドラーの人数 ・自チーム以外のハンドラー	・（競技者1人あたり）マネキンハンドラーは「1人」に変更。 ・「チーフレフリーが承認すれば、チームメンバー以外で当該競技会に然るべき立場で登録している者がハンドラーを務めてもよい。」が追加。	特に言及されていない。	
3.3.4.(b)	マネキンハンドラー	追加	マネキンの持ち方	マネキンハンドラーは「手を使って」マネキンを保持すること、が追加。	特に言及されていない。	
3.5.1.	全自動審判計時装置による計時	修正	名称の変更	「全自動審判計時装置」に変更。*理由詳細は本文脚注を参照。	「全自動装置」	
3.7.2.	障害物スイム	修正	競技の説明	3.7.1.で200mの、3.7.2.で100mの、それぞれ説明に分割。		
3.7.4.	障害物スイム	追加	失格の追加	(d)DQ17の追加。		
3.8.1.	マネキンキャリアー	追加	プールの底の利用	「マネキンを水面に引き上げる際、競技者はプールの底を押してもよい。」が追加。		
3.8.2.(b)	マネキンキャリアー	修正	マネキンの設置位置	マネキンの設置位置となる基準が、胸部中央ラインの「上端」が25mラインにくるように置かれる、に変更。	胸部中央の「横ライン」	
3.8.2.(c)	マネキンキャリアー	追加	マネキンの浮上	(c)の説明が追加。		
3.8.3.	マネキンキャリアー	削除		DQ20の内容変更によりマネキンキャリアーは対象外であるため。	3.8(5)③DQ20を削除。	
3.9.1.	レスキューメドレー	追加	プールの底の利用	「マネキンを水面に引き上げる際、競技者はプールの底を押してもよい。」が追加。		
3.9.2.(b)	レスキューメドレー	修正	マネキンの設置位置	マネキンの設置位置となる基準が、胸部中央ラインの「上端」が17.5mラインにくるように置かれる、に変更。	胸部中央の「横ライン」	
3.9.2.(c)	レスキューメドレー	追加	マネキンの浮上	(c)の説明が追加。		
3.9.3.	レスキューメドレー	削除		DQ20の内容変更によりレスキューメドレーは対象外であるため。	3.9(5)②DQ20を削除。	
3.10.1.	マネキンキャリアー・ウィズフィン	追加	プールの底の利用	「マネキンを水面に引き上げる際、競技者はプールの底を押してもよい。」が追加。		
3.10.2.(c)	マネキンキャリアー・ウィズフィン	追加	マネキンの浮上	(c)の説明が追加。		
3.10.3.	マネキンキャリアー・ウィズフィン	削除		DQ20の内容変更によりマネキンキャリアー・ウィズフィンは対象外であるため。	3.10(5)②DQ20を削除。	
3.11.	マネキントウ・ウィズフィン	削除	コース図	レスキューチューブを用いて引っ張る（トウ）前に、マネキンにレスキューチューブを正しく巻く際の基準となる距離（ライン）が、10mに変更のため。	コース右側の5mラインを削除	
3.11.1.	マネキントウ・ウィズフィン	修正	ピックアップゾーンの範囲	レスキューチューブを用いて引っ張る（トウ）前に、マネキンにレスキューチューブを正しく巻く際の基準となる距離（ライン）が、「10m」に変更。	「5m」	
3.11.2.(b)	マネキントウ・ウィズフィン	修正	・マネキンハンドラーの人数 ・自チーム以外のハンドラー ・マネキンハンドラーの入水	・（競技者1人あたり）マネキンハンドラーは「1人」に変更。 ・「チーフレフリーが承認すれば、チームメンバー以外で当該競技会に然るべき立場で登録している者がハンドラーを務めてもよい。」が追加。 ・「競技中、マネキンハンドラーは故意にプールに入ってはいけない。」が追加。		
3.11.2.(c)	マネキントウ・ウィズフィン	追加	レスキューチューブのクリップ	「レスキューチューブのクリップは、マネキンに装着するまで外したままにしておく。」が追加。		
3.11.2.(d)	マネキントウ・ウィズフィン	追加	レスキューチューブの装着	レスキューチューブの装着について追加された *2019年版では「プール競技の一般規則」にまとまっていたが、2020年版では削除され、それぞれの競技種目に記載されている。	3.1 n)に相当する箇所。(P.48)	
3.11.2.(e)	マネキントウ・ウィズフィン	修正	・ピックアップゾーンの範囲 ・マネキンの確保	・レスキューチューブを用いて引っ張る（トウ）前に、マネキンにレスキューチューブを正しく巻く際の基準となる距離（ライン）が、「10m」に変更。 ・マネキンの頭部が10mラインを通過していなければ、競技者は10mピックアップゾーン内に戻って、マネキンを確保し直してもよい。	「5m」	
3.11.2.(f)	マネキントウ・ウィズフィン	修正	レスキューチューブの紐	レスキューチューブの紐は、マネキンの頭頂部が10mラインを通過するまでに、「完全に」伸びた状態にしなければならない、に変更。 *レスキューチューブの紐を伸ばすこと自体に変更はない。また紐を伸ばした状態の判定の基準となる距離（ライン）は、10mから変更なし。	「十分に」が変更。「できるだけ速やかに」は削除。	

節番号	箇所	種別	カテゴリ	2020年版変更点の詳細	2019年版の表記など	備考
3.11.2.(g)	マネキントウ・ウイズフィン	修正	マネキンの扱い	3.3.3.(b)と(d)の説明に合うように変更。 10mラインにおいてレスキューチューブが「正しく付けられ」、マネキンの顔が水面より上にあれば、競技者がマネキンを引っ張っている間に一方の腕からレスキューチューブがずれても失格にはならない。	3.11(4)⑥に相当。	
3.11.2.(h)	マネキントウ・ウイズフィン	新規	レスキューチューブの紐	(h)の説明が新しく追加。 レスキューチューブの紐がマネキンの回りに巻き付いて紐が短くなつてはならないこと。		
3.11.2.(i)	マネキントウ・ウイズフィン	新規	マネキンの扱い	(i)の説明が新しく追加。 マネキンがレスキューチューブ内で回転しても、マネキンの顔が水面より上に残っている限り、競技者は失格にならない。マネキンが10mライン時点で正しく確保され、且つ顔が水面より上に残っていれば、マネキンの頭を先にして運ぶ必要はない。		
3.11.2.(n)	マネキントウ・ウイズフィン	新規	レスキューチューブの不具合	(n)の説明が新しく追加。 レスキューチューブに技術的な不具合があるとチーフレフリーが判断した場合に再スタートすることについて言及（諸条件あり）。		
3.11.3.(i)	マネキントウ・ウイズフィン	修正	ピックアップゾーンの範囲	マネキンの頭頂部が「10m」ラインを越えるまでに、に変更。	マネキンの頭頂部が「5m」ラインを越えるまでに	
3.11.3.(j)	マネキントウ・ウイズフィン	修正	レスキューチューブの紐	レスキューチューブの紐が「完全に」伸ばされていない場合、に変更。	「十分に」	
3.11.3.(k)	マネキントウ・ウイズフィン	修正	レスキューチューブの紐	レスキューチューブの紐が「完全に」伸びた状態で...、に変更。	「十分に」 (ただし、マネキンを再度固定するために競技者が停止した場合を除く)は削除。	
3.11.3.(l)	マネキントウ・ウイズフィン	修正	失格内容の変更	マネキンの顔「が水面下にある状態で引っ張った」場合、に修正。	マネキンの顔を「下向きで」運んだ(キャリアまたはトウ)場合。	
3.11.3.(m)	マネキントウ・ウイズフィン	修正	マネキンの扱い	マネキンを引っ張らずに押したり、「運んだり(キャリア)」した場合、に変更。	「抱えたり」	
3.12.	スーパーライフセーバー	削除	コース図	レスキューチューブを用いて引っ張る(トウ)前に、マネキンにレスキューチューブを正しく巻く際の基準となる距離(ライン)が、10mに変更のため。	コース右側の5mラインを削除	
3.12.1.	スーパーライフセーバー	修正	ピックアップゾーンの範囲	レスキューチューブを用いて引っ張る(トウ)前に、マネキンにレスキューチューブを正しく巻く際の基準となる距離(ライン)が、「10m」に変更。	「5m」	
3.12.2.(c)	スーパーライフセーバー	修正	マネキンの設置位置	運ぶマネキンの設置位置となる基準が、(胸部中央)横ラインの「上部(上端)」が25mラインにくるように置かれる、に変更。	胸部中央の「横ライン」	
3.12.2.(d)	スーパーライフセーバー	修正	・マネキンハンドラーの人数 ・自チーム以外のハンドラー ・マネキンハンドラーの入水	・(競技者1人あたり)マネキンハンドラーは「1人」に変更。 ・「チーフレフリーが承認すれば、チームメンバー以外で当該競技会に然るべき立場で登録している者がハンドラーを務めてもよい。」が追加。 ・「競技中、マネキンハンドラーは故意にプールに入ってはいけない。」が追加。		
3.12.2.(e)	スーパーライフセーバー	追加	プールの底の利用	「競技者は、マネキンと共に浮上する際、プールの底を押ししてもよい。」が追加。		
3.12.2.(g)	スーパーライフセーバー	追加	レスキューチューブの装着	レスキューチューブの装着について追加された *2019年版では「プール競技の一般規則」にまとまっていたが、2020年版では削除され、それぞれの競技種目に記載されている。	3.1 n)に相当する箇所。(P.48)	
3.12.2.(h)	スーパーライフセーバー	修正	・ピックアップゾーンの範囲 ・マネキンの確保	・レスキューチューブを用いて引っ張る(トウ)前に、マネキンにレスキューチューブを正しく巻く際の基準となる距離(ライン)が、「10m」に変更。 ・マネキンの頭部が10mラインを通過していなければ、競技者は10mピックアップゾーン内に戻って、マネキンを確保し直してもよい。	「5m」	
3.12.2.(i)	スーパーライフセーバー	修正	レスキューチューブの紐	レスキューチューブの紐は、マネキンの頭頂部が10mラインを通過するまでに、「完全に」伸びた状態にしなければならない、に変更。 *レスキューチューブの紐を伸ばすこと自体に変更はない。また紐を伸ばした状態の判定の基準となる距離(ライン)は、10mから変更なし。	「十分に」が変更。「できるだけ速やかに」は削除。	

節番号	箇所	種別	カテゴリ	2020年版変更点の詳細	2019年版の表記など	備考
3.12.2.(j)	スーパーライフセーバー	修正	マネキンの扱い	3.3.3.(b)と(d)の説明に合うように変更。 10mラインにおいてレスキューチューブが「正しく付けられ」、マネキンの顔が水面より上にあれば、競技者がマネキンを引っ張っている間に一方の腕からレスキューチューブがずれても失格にはならない。	3.12(4)⑨に相当。	
3.12.2.(k)	スーパーライフセーバー	新規	レスキューチューブの紐	(k)の説明が新しく追加。 レスキューチューブの紐がマネキンの回りに巻き付いて紐が短くなつてはならないこと。		
3.12.2.(l)	スーパーライフセーバー	新規	マネキンの扱い	(l)の説明が新しく追加。 マネキンがレスキューチューブ内で回転しても、マネキンの顔が水面より上に残っている限り、競技者は失格にならない。マネキンが10mライン時点で正しく確保され、且つ顔が水面より上に残っていれば、マネキンの頭を先にして運ぶ必要はない。		
3.12.2.(n)	スーパーライフセーバー	新規	レスキューチューブの不具合	(n)の説明が新しく追加。 レスキューチューブに技術的な不具合があるとチーフレフリーが判断した場合に再スタートすることについて言及（諸条件あり）。		
3.12.3.(l)	スーパーライフセーバー	修正	ピックアップゾーンの範囲	マネキンの頭頂部が「10m」ラインを越えるまでに、に変更。	マネキンの頭頂部が「5m」ラインを越えるまでに	
3.12.3.(m)	スーパーライフセーバー	修正	レスキューチューブの紐	レスキューチューブの紐が「完全に」伸ばされていない場合、に変更。	「十分に」	
3.12.3.(n)	スーパーライフセーバー	修正	レスキューチューブの紐	レスキューチューブの紐が「完全に」伸びた状態で...、に変更。	「十分に」 (ただし、マネキンを再度固定するために競技者が停止した場合を除く)は削除。	
3.12.3.(o)	スーパーライフセーバー	修正	失格内容の変更	マネキンの顔「が水面下にある状態で引っ張った」場合、に修正。	マネキンの顔を「下向きで」運んだ（キャリアまたはトウ）場合。	
3.12.3.(p)	スーパーライフセーバー	修正	マネキンの扱い	マネキンを引っ張らずに押ししたり、「運んだり（キャリア）」した場合、に変更。	「抱えたり」	
3.12.3.	スーパーライフセーバー	修正	失格内容の補足	DQ24の「レスキューチューブをマネキンに巻きつける際、プールの付属品（例えば、レンロープ、階段、排水管、水中ホッケーの備品等）を補助として用いた場合。」が失格内容には記載が無いが、後述のプール競技失格コードの一覧には該当項目に含まれるため、同内容及びDQコードはスーパーライフセーバーにも該当する。	3.12(5)⑤に相当。（P.71）	ILS原文も同様の為、掲載漏れと思われる。
3.13.	ラインスロー	修正	名称の変更	「スロアー」（thrower）に変更。 *原文通り	「救助者」	
3.13.1.(c)	ラインスロー	修正	溺者役の違反基準	競技終了の合図の前の溺者役の退水について、「腰を越えて水から出ようとしたり」に変更。	水中から上がろうとしたり...	
3.13.1.(f)	ラインスロー	追加	スロアーの位置	スロアーにおける<スローゾーン内に位置する>の足の置き方について。「スローゾーン内の床の上又はスローゾーンの上空のどちらか」に変更。	どちらか一方の足（全部）をスローゾーン内に位置しなければならない。	
3.13.2.(a)	ラインスロー	追加	器材の規格	スローラインの器材説明が追加。 *第8章の規格の通り		
3.14.	マネキンリレー	修正	コース図	・コース中央のチェンジオーバーゾーンの幅が「5m」に変更。 ・コース左側が「スタート/フィニッシュゾーン」に変更。	・「4m」 ・「スタートゾーン」	
3.14.1.(a)	マネキンリレー	修正	チェンジオーバーゾーン	「22.5m」地点から「27.5m」地点の間の「5m」のチェンジオーバーゾーン	「23m」地点から「27m」地点	
3.14.1.(c)	マネキンリレー	修正	チェンジオーバーゾーン	「72.5m」地点から「77.5m」地点のチェンジオーバーゾーン	「73m」地点から「77m」地点	
3.14.1.	マネキンリレー	削除		フィニッシュゾーンは「マネキンを運ぶ（キャリア）」の規則が適用されない。	3.14(4)②の「注意：」を削除。	
3.14.3.	マネキンリレー	削除		DQ20の内容変更によりマネキンリレーは対象外であるため。	3.14(5)②DQ20を削除。	
3.14.3.	マネキンリレー	追加	失格の追加	(g)DQ18, (j)DQ50, (i)DQ61の追加。		
3.15.3.	障害物リレー	追加	失格の追加	(d)DQ17の追加。		
3.16.	メドレーリレー	削除	コース図	第3競技者がレスキューチューブを掴む範囲が10mに変更のため。	コース右側の5mラインを削除	
3.16.1.(a)	メドレーリレー	修正	第3競技者の動き	溺者役は「10m」ラインを通過する前に	「5m」ラインを越える前に	
3.16.1. 最初の説明, (d), (e)	メドレーリレー	修正	第3競技者の動き	レスキューチューブ「及び/又はクリップ」を掴むこと。 *クリップ部分が追加	レスキューチューブの本体を掴まなければならない（紐や「クリップ」の部分を掴んではならない）。	

節番号	箇所	種別	カテゴリ	2020年版変更点の詳細	2019年版の表記など	備考
3.16.2.(c)	メドレーリレー	追加	レスキューチューブの装着	レスキューチューブの装着について追加された *2019年版では「ブル競技の一般規則」にまとまっていたが、2020年版では削除され、それぞれの競技種目に記載されている。	3.1 n)に相当する箇所。(P.48)	
3.16.2.(d)	メドレーリレー	追加	第3, 第4競技者の動き	「溺者役の頭頂部が10mラインを越えていなければ、溺者役を再度確保するために10mのチェンジオーバーゾーンに戻ってもよい。」が追加。		
3.16.2.(f)	メドレーリレー	追加	レスキューチューブの不具合	「レスキューチューブの不具合」が追加。		
3.16.3	メドレーリレー	修正	失格の修正	(d)DQ46, (e)DQ47, (f)DQ48, (g)DQ49の内容が修正。		
3.17.1.(c)	ブルライフセーバーリレー	追加	第3競技者の動き	「第3競技者はマネキンの頭部が水面に浮上する前に、マネキンに触れてもよい(掴んではいけない)。」が追加。	第2→第3の引き継ぎ	
3.17.1.(h)	ブルライフセーバーリレー	追加	フィニッシュゾーン	「マネキンを運ぶ(キャリア)」の規則は、リレーの最後のフィニッシュゾーン内では適用されない。」が追加。		
3.17.1.(l) 注意:	ブルライフセーバーリレー	修正	男女の区間	「男女が泳ぐ順番はチームが選んでよい。」に変更。	主催者は、競技の男子区間と女子区間を決める抽選をしなければならない。	
3.17.3	ブルライフセーバーリレー	修正	・失格の修正 ・失格の追加	・(c)DQ59, (e)DQ60の内容が修正。 ・(d)DQ18, (h)DQ23が追加。		
3.17.3.	ブルライフセーバーリレー	削除		DQ20及びDQ61の内容変更によりブルライフセーバーリレーは対象外であるため。	3.17(5)②DQ20及び③DQ61を削除。	
DQ5	ブル競技失格コード	修正	損壊の対象物	「他者の所有物」に変更。	「その他の競技会関連施設」	
DQ17	ブル競技失格コード	追加	対象種目の追加	「障害物スイム」「障害物リレー」が追加。		
DQ18	ブル競技失格コード	追加	・条件の追記 ・対象種目の追加	・「(フィンを装着しないで運ぶ場合)」が追加。 ・「マネキンリレー」が追加。		
DQ20	ブル競技失格コード	修正	・失格内容の変更 ・対象種目の変更	・「水面より下にして」に修正。 ・「マネキントウ・ウィズフィン」「スーパーライフセーバー」以外を削除。	マネキンの顔を「下向きで」運んだ(キャリアまたはトウ)場合。	
DQ21	ブル競技失格コード	追加	対象種目の追加	「ブルライフセーバーリレー」が追加。		
DQ23	ブル競技失格コード	追加	・条件の追記 ・対象種目の追加	・「(フィンを装着して運ぶ場合)」が追加。 ・「ブルライフセーバーリレー」が追加。		
DQ26	ブル競技失格コード	修正	マネキンに触れる前の壁タッチ	「故意に」が追加。		
DQ32	ブル競技失格コード	修正	ピックアップゾーンの範囲	「10m」に変更。	「5m」	
DQ33	ブル競技失格コード	修正	マネキンの扱い	「運んだ(キャリアした)」に変更。	「抱えたり」	
DQ34	ブル競技失格コード	修正	レスキューチューブの紐	「完全に」に変更。	「十分に」	
DQ35	ブル競技失格コード	修正	レスキューチューブの紐	「完全に」に変更。	「十分に」	
DQ38	ブル競技失格コード	削除	DQコードの重複	DQ21との重複のため削除される(使用しない)		
DQ43	ブル競技失格コード	修正	マネキンの扱い	「即ち、「各競技者の」一方の手がマネキンに触れてなければならない。」に修正。		
DQ46	ブル競技失格コード	修正	第3競技者の動き	「レスキューチューブの紐を掴んでいる場合」に変更。	第3競技者が5mラインを越えた後、レスキューチューブの本体を掴まずに紐やクリップを掴んでいる場合。	
DQ47	ブル競技失格コード	修正	第3競技者の動き	「及び/又はクリップ」が追加。		
DQ48	ブル競技失格コード	修正	ピックアップゾーンの範囲	「10m」に変更。	「5m」	
DQ49	ブル競技失格コード	修正	レスキューチューブの紐	「完全に」に変更。	「十分に」	
DQ58	ブル競技失格コード	修正	名称の変更	「スロアー」 *原文通り	「救助者」	
DQ59	ブル競技失格コード	修正	第3競技者の動き	「マネキンの頭部が水面に浮上する前に、第3競技者が壁/縁から手を放した場合、又はマネキンを掴んだ場合。」に変更。	第3競技者が、マネキンに触れる前にブルの壁から手を放した場合。	
DQ60	ブル競技失格コード	修正	第3, 第4競技者の動き	「第3競技者がブルの壁/縁にタッチする前に第4競技者がマネキンに触れる。」に変更。	マネキンが以下のときに引き渡された場合: ・第2競技者がマネキンを浮上させる前、 ・第3競技者がブルの壁にタッチする前。	
DQ61	ブル競技失格コード	修正	・失格内容の変更 ・対象種目の変更	・「マネキンリレーの競技者は、リレーの担当区間を完了したら、オールクリア(問題なし)の合図が出される前に水から上がる。」に変更。 ・「マネキンリレー」に変更。	・抽選で決められた男子区間と女子区間に従って競技しなかった場合。 ・ブルライフセーバーリレー	

節番号	箇所	種別	カテゴリ	2020年版変更点の詳細	2019年版の表記など	備考
4.	オーシャン競技規則	修正	種目の変更	競技種目一覧のうち、一部の種目名称が変更。 ・3×1kmビーチランリレー ・オーシャンマン/オーシャンウーマン（及びオリンピック“M”フォーマットバリエーション） ・オーシャンライフセーバー混合リレー（オーシャンマンオーシャンウーマンリレーのバリエーション）		
4.1.	オーシャン競技の一般規則	削除		レスキューチューブの扱い方は、関係する各競技種目の規則に、それぞれ明記されている。	4.1 m)とn)の全文を削除。（P.96）	
4.2.4.(c)	スタート	追加	スタート姿勢・ビーチ種目	「この場合、競技者のつま先はラインの上又は後ろでなければならないが、競技者の体（ボディ）の上部はラインを上空で越えてもよい。」が追加。		
4.2.4.(e)	スタート	追加	スタート姿勢・スキー種目等	「目視ラインをスタートラインとする場合、」が追加。		
4.2.6.(a)	スタート	追加	スターターの役割	「スターター及びチェックスターターの任務は、公平なスタートを確保することである。技術的又は器材の不具合、海の条件、又はその他競技者の責によらない事項を含め、」が追加。		
4.2.6.(b)	スタート	追加	スタート時の意図しない動き	「又は水中スタートにおいて波で押されるといった」が追加。		
4.2.6.(d)	スタート	追加	スタートの合図の責	(d)の説明が新しく追加。		
4.3.	フィニッシュ	削除		4.3.1.判定の(c)に含有された	4.3 e)の全文を削除。（P.100）	
4.3.1.(b)	フィニッシュ	追加	電子機器による判定	(b)の説明が新しく追加。		
4.3.1.(c)	フィニッシュ	追加	電子タグの扱い	(c)の説明が新しく追加。		
4.4.2.	組み合わせ配置	追加	決勝進出の人数	2段落目の説明「予選及び/又は更なるラウンド～オーシャンマン/オーシャンウーマンリレー。」が追加。		
4.4.5.	組み合わせ配置	修正	最大競技人数	新種目の追加、種目の名称変更及び一部の競技種目における最大競技者数が変更。 ・「3」×1kmビーチランリレー：1チームあたり「3」人 ・オーシャンマン/オーシャンウーマン：勝ち残り方式は「20」人 ・「オーシャンM」：「24人」 ・「オーシャンMライフセーバーリレー」：「24チーム（1チームあたり4人）」		
4.5.1.	サーフレース	追加	・マスターズのブイの距離 ・フィニッシュ後の整列	・マスターズの距離（280m）が追加。 ・フィニッシュ後の競技者の動線について追加。		
4.5.3.	サーフレース	追加	・ブイロープの取り扱い ・オフィシャルの配置と役割	・「注意：」の一文が追加。 ・ジャッジ（オフィシャル）の配置について明記。		
4.5.コース図	サーフレース	修正	・ブイの距離 ・マスターズについて	・ブイまでの距離が「120m以上」、170m以上に変更。 ・マスターズ区分における注意書が追加。	4.5.(4)①約120m, 約170m	
4.6.3.	サーフチームレース	追加	・ブイロープの取り扱い ・オフィシャルの配置と役割	・「注意：」の一文が追加。 ・ジャッジ（オフィシャル）の配置について明記。		
4.6.コース図	サーフチームレース	修正	・ブイの距離 ・マスターズについて	・ブイまでの距離が「120m以上」、170m以上に変更。 ・マスターズ区分における注意書が追加。		
4.7.1.	レスキューチューブレスキュー	修正	名称の変更	・「レスキューチューブスマイマー」に変更。 *原文通り ・「レスキューア」に変更。 *原文通り	・「救助者」 ・「アシスタント」	
4.7.1.(a)	レスキューチューブレスキュー	追加	ブイロープの取り扱い	「注意：」の「2」の一文が追加。		
4.7.1.(b)	レスキューチューブレスキュー	追加	ブイロープの取り扱い	「注意：」の一文が追加。		
4.7.1.(d)	レスキューチューブレスキュー	追加	フィニッシュの注意点	「注意：」の一文が追加。		
4.7.5.	レスキューチューブレスキュー	追加	オフィシャルの配置と役割	各オフィシャルの役割や配置を明確に記載。		
4.7.コース図	レスキューチューブレスキュー	修正	ブイの距離	ブイまでの距離が「120m以上」に変更。		
4.8.1.注意：（1つめ）	レスキューチューブレース	追加	ブイロープの取り扱い	「注意：」の一文が追加。		
4.8.3.	レスキューチューブレース	追加	オフィシャルの配置と役割	各オフィシャルの役割や配置を明確に記載。		
4.8.コース図	レスキューチューブレース	修正	ブイの距離	ブイまでの距離が「120m以上」に変更。		
4.9.1.	ランスイムラン	追加	ブイロープの取り扱い	「注意：」の一文が追加。		
4.9.3.	ランスイムラン	追加	オフィシャルの配置と役割	ジャッジ（オフィシャル）の配置について明記。		

節番号	箇所	種別	カテゴリ	2020年版変更点の詳細	2019年版の表記など	備考
4.9.コース図	ランスイムラン	修正	ブイの距離	ブイまでの距離が120m以上に変更。		
4.10.1.	ビーチフラッグス	追加	オフィシャルの指示	「注意：」の「3.」が追加。		
4.10.2.	ビーチフラッグス	追加	オフィシャルの動き	「スタートの手順」が追加。 * マーシャルとチーフレフリー/セクショナルレフリーの動きを記載。		
4.10.8.	ビーチフラッグス	追加	競技エリアの整地	「ビーチフラッグスのアリーナには、小石や細かなゴミが無いようにし、砂の表面が固い場合は、安全のため、競技前及び競技中に熊手等で土を掻きならすこと。」が追加。		
4.10.9.	ビーチフラッグス	追加	競技者の服装	「チームのユニフォーム要件に準拠しているショートパンツ及びシャツは、競技者の裁量で着用してよい。」が追加。 * 第2章2.10.(b)の通りであり、変更されたわけではない。		
4.10.10.	ビーチフラッグス	追加	オフィシャルの配置と役割	各オフィシャルの役割や配置を明確に記載。		
4.10.11.	ビーチフラッグス	追加	ビーチフラッグスの抗議と上訴	ビーチフラッグス競技における抗議と上訴の手順が追加。 * 第2章2.17.2.(d)にも同じ記載があり、その重複記載である。		
4.10.11.	ビーチフラッグス	削除		(右記参照)	4.10 (6)の序文末尾「～失格または除外となる。」のうち、「または除外となる」が削除。	
4.10.コース図	ビーチフラッグス	追加	マスターズの距離	マスターズの距離 (15m) が追加。		
4.11.1.	ビーチスプリント	追加	マスターズの距離	マスターズの距離 (70m) が追加。		
4.11.2.	ビーチスプリント	追加	スターティングブロック	「人工的なスターティングブロックの使用は許可されないが、」が追加。		
4.11.3.	ビーチスプリント	追加	マスターズの距離	マスターズの距離 (70m) が追加。		
4.11.4.	ビーチスプリント	追加	競技者の服装	「チームのユニフォーム要件に準拠しているショートパンツ及びシャツは、競技者の裁量で着用してよい。」が追加。 * 第2章2.10.(b)の通りであり、変更されたわけではない。		
4.11.5.	ビーチスプリント	追加	オフィシャルの配置と役割	各オフィシャルの役割や配置を明確に記載。		
4.11.コース図	ビーチスプリント	追加	マスターズの距離	マスターズの距離 (70m) が追加。		
4.12.	ビーチラン - 2km及び1km	修正	競技の説明	4.12.1.で2kmの、4.12.2.で1kmの、それぞれ説明に分割。		
4.12.1.	ビーチラン - 2km及び1km	修正	・ コースの周回距離 ・ オフィシャルの配置	・ 基本となるコースが片道250mに変更。 * 状況に応じて、片道500mにしてもよい。 ・ ジャッジ (オフィシャル) の配置について明記された。	片道500m	
4.12.3.	ビーチラン - 2km及び1km	追加	・ 走行レーン ・ 逆方向のコース	・ 走行レーンにおいて、「海に近い側のレーンは、スタート/フィニッシュラインから走る区間である。」ことが追加。 ・ 「注意：」が追加。コースを逆方法に走らせる場合の説明。		
4.12.4.	ビーチラン - 2km及び1km	追加	競技者の服装	「チームのユニフォーム要件に準拠しているショートパンツ及びシャツは、競技者の裁量で着用してよい。履物は任意である。」が追加。 * 第2章2.10.(b)と2.10.5.の通りであり、変更されたわけではない。		
4.12.5.	ビーチラン - 2km及び1km	追加	オフィシャルの配置と役割	各オフィシャルの役割や配置を明確に記載。		
4.12.コース図	ビーチラン - 2km及び1km	修正	周回コース	基本となるコースが片道250mであるため、それに合うコース図に変更。		
4.13.	3×1kmビーチランリレー	修正	競技人数の変更	「3」×1kmビーチランリレー	「2」×1kmビーチランリレー	
4.13.1.	3×1kmビーチランリレー	修正	競技人数の変更	「2人」から「3人」に競技者人数が修正された。併って、3人分の競技説明の記述に修正された。		
4.13.1.	3×1kmビーチランリレー	修正	・ コースの周回距離 ・ オフィシャルの配置	・ 基本となるコースが片道250mに変更。 * 状況に応じて、片道500mにしてもよい。 ・ ジャッジ (オフィシャル) の配置について明記。	片道500m	
4.13.2.	3×1kmビーチランリレー	追加	・ 走行レーン ・ 逆方向のコース	・ 走行レーンにおいて、「海に近い側のレーンは、スタート/フィニッシュラインから走る区間である。」ことが追加。 ・ 「注意：」が追加。コースを逆方法に走らせる場合の説明。		
4.13.3.	3×1kmビーチランリレー	追加	競技者の服装	「チームのユニフォーム要件に準拠しているショートパンツ及びシャツは、競技者の裁量で着用してよい。履物は任意である。」が追加。 * 第2章2.10.(b)と2.10.5.の通りであり、変更されたわけではない。		

節番号	箇所	種別	カテゴリ	2020年版変更点の詳細	2019年版の表記など	備考
4.13.4.	3×1kmビーチランリレー	追加	オフィシャルの配置と役割	各オフィシャルの役割や配置を明確に記載。		
4.13.コース図	3×1kmビーチランリレー	修正	周囲コース	基本となるコースが片道250mであるため、それに合うコース図に変更。		
4.14.1.	ビーチリレー	追加	マスターズについて	マスターズの手順（競技人数、距離、など）が追加。		
4.14.3.	ビーチリレー	修正	名称の変更	「境界線」	「チェンジオーバーライン」	
4.14.6.	ビーチリレー	追加	オフィシャルの配置と役割	各オフィシャルの役割や配置を明確に記載。		
4.14.コース図	ビーチリレー	追加	マスターズの距離	マスターズの距離（70m）が追加。	図の下の表	
4.15.2.	サーフスキーレース	修正	ブイの距離	・2個のブイは「300m以上」。 ・マスターズの距離（250m以上）が追加。 ・3個のブイで「弧を描くようにする」	・「約300m」 ・（新規追加） ・3個のブイで「三角形」	
4.15.3.(d)	サーフスキーレース	追加	自チーム以外のハンドラー	「チーフレフリーが承認すれば、チームメンバー以外で当該競技会に然るべき立場で登録している者がハンドラーを務めてもよい。」が追加。		
4.15.3.(e)	サーフスキーレース	追加	ハンドラーの遵守事項	ハンドラーについて、説明が追加。		
4.15.5.	サーフスキーレース	追加	オフィシャルの配置と役割	ジャッジ（オフィシャル）の配置について明記。		
4.15.コース図	サーフスキーレース	修正	・ブイの距離 ・マスターズについて	・ブイまでの距離が300m"以上"に変更。 ・マスターズのブイの距離（250m以上）が追加。		
4.16.4.	サーフスキーリレー	追加	オフィシャルの配置と役割	ジャッジ（オフィシャル）の配置について明記。		
4.16.6.	サーフスキーリレー	追加	マスターズについて	マスターズ区分におけるコースと手順が追加。		
4.16.コース図	サーフスキーリレー	修正	・ブイの距離 ・マスターズについて	・ブイまでの距離が250m"以上"に変更。 ・マスターズ区分における陸上の設置例が追加。		
4.17.2.	ボードレース	修正	・ブイの距離 ・マスターズの距離	・「250m以上」。 ・マスターズの距離について追加。 *オープンと同じ距離。 ・3個のブイで「弧を描くようにする」	・「約250m」 ・（新規追加） ・3個のブイで「三角形」	
4.17.コース図	ボードレース	修正	・ブイの距離 ・マスターズについて	・ブイまでの距離が250m"以上"に変更。 ・マスターズの距離について追加。 *オープンと同じ距離。		
4.18.2.	ボードリレー	追加	コースの変更	「スタートとフィニッシュを公平にするため、海況に応じてチーフレフリーの裁量で、ブイに対するスタートライン及びフィニッシュラインの配置を変更することができる。」が追加。		
4.18.3.(c)	ボードリレー	削除		(右記参照)	4.18 (5)⑩「～上衣またはキャップに入れるか...」の「上衣」を削除。	
4.18.6.	ボードリレー	追加	マスターズについて	マスターズ区分におけるコースと手順が追加。		
4.18.コース図	ボードリレー	修正	・ブイの距離 ・マスターズについて	・ブイまでの距離が250m"以上"に変更。 ・マスターズ区分における陸上の設置例が追加。		
4.19.1.	ボードレスキュー	修正	名称の変更	「ボードレスキューア」に変更。 *原文通り	「第1競技者」	
4.19.1.(b)注意2.	ボードレスキュー	追加	ブイロープの取り扱い	「注意：」の「2.」一文が追加。		
4.19.4.	ボードレスキュー	追加	オフィシャルの配置と役割	ジャッジ（オフィシャル）の配置について明記。		
4.19.コース図	ボードレスキュー	修正	ブイの距離	ブイまでの距離が120m"以上"に変更。		
4.20.	オーシャンマン/オーシャンウーマン	修正	呼び方の変更	「ビーチスプリント」に変更。 *原文通り	「ラン区間」	
4.20.1.ハンドラー	オーシャンマン/オーシャンウーマン	修正	自チーム以外のハンドラー	「チーフレフリーが承認すれば、チームメンバー以外で当該競技会に然るべき立場で登録している者がハンドラーを務めてもよい。」が追加。		
4.20.2.	オーシャンマン/オーシャンウーマン	修正	・ブイの距離 ・マスターズのブイの距離	・スイムブイまでの距離が120m"以上"に変更。 ・マスターズ区分を実施する場合の注意書き（海況によりブイが規定の位置より遠くなる場合）が追加。	「約120m」	
4.20.4.	オーシャンマン/オーシャンウーマン	追加	オフィシャルの配置と役割	ジャッジ（オフィシャル）の配置について明記。		
4.21.	オーシャンM	新規	新種目の追加	新競技種目「オーシャンM」が追加。		
4.22.	オーシャンマン/オーシャンウーマン勝ち残りバージョン	新規	新種目の追加	2019年版において「オーシャンマン/オーシャンウーマン」内で説明されていた「勝ち残りバージョン」が、個別の競技種目として記載。	4.20 ■勝ち残り方式オーシャンマン/オーシャンウーマン (P.150)	

節番号	箇所	種別	カテゴリ	2020年版変更点の詳細	2019年版の表記など	備考
4.22.1.	オーシャンマン/オーシャンウーマン勝ち残りバージョン	削除		・各レースの勝者が次のレースの区間順序を決めなくなった。 ・特殊なスタートの方法、スタート時の特殊なクラフトの置き方が廃止された。すなわち、オーシャンマン/オーシャンウーマンの方法が踏襲される。	・「注意2:」のすぐ下の一文を削除。 ・「競技者は横一列～撤去しなければならぬ。」の一文を削除。(共にP.150)	
4.23.1.	オーシャンマン/オーシャンウーマンリレー	追加	マスターズについて	マスターズ競技の説明(競技者数、コース)が追加。		
4.23.3.	オーシャンマン/オーシャンウーマンリレー	追加	オフィシャルの配置と役割	ジャッジ(オフィシャル)の配置について明記。		
4.23.5.	オーシャンマン/オーシャンウーマンリレー	追加	マスターズについて	マスターズ区分におけるコースと手順が追加。		
4.23.コース図	オーシャンマン/オーシャンウーマンリレー	修正	・ブイの距離 ・ボードブイ ・マスターズについて	・スイムブイまでの距離が「120m以上」に変更。 ・ボードブイの数が変更。 ・マスターズ区分における陸上の設置例が追加。		
	(2019年版 4.22 オーシャンライフセーバーリレー)	削除		2019年版 4.22 オーシャンライフセーバーリレーは削除。 *代わりに「オーシャンMライフセーバーリレー」が追加されている。	4.22 全て削除。(P.156)	
4.24.	オーシャンMライフセーバーリレー	新規	新種目の追加	新競技種目「オーシャンMライフセーバーリレー」が追加。		
DQ1	オーシャン競技失格コード	修正	失格内容の変更	「共通競技総則に沿って競技しなかった。」に修正。	「種目別の競技規則」が削除。	
DQ5	オーシャン競技失格コード	修正	損壊の対象物	「他者の所有物」に変更。	「その他の競技会関連施設」	
DQ12	オーシャン競技失格コード	修正	失格内容の変更	「規程された通りに競技種目及び/又はコースを完了できなかった。」に修正。	DQ1の一部の内容がDQ12に含有された。	
5.1.	シミュレーテッド・エマーゼンシー・レスポンス競技(SERC)総則	修正	文章及び項目の構成	総則内の文章及び項目の構成が変更。 *内容は変更無し。		
	(2019年版 5.2(4))	削除		(右記参照)	5.2(4)⑥を削除。	
5.3.1.(c)	シミュレーテッド・エマーゼンシー・レスポンス競技(SERC)総則	追加	ILSによるSERCガイド	「加えて、 https://www.ilsf.org に掲載されている、コーチ、競技者及び競技役員のためのSERCガイドを参照すること。」が追加。		
DQ2	シミュレーテッド・エマーゼンシー・レスポンス競技失格コード	修正	損壊の対象物	「他者の所有物」に変更。	「その他の競技会関連施設」	
SERC:全般	サンプル採点シート	修正	採点の注意	文章が欠落している。以下を補足追記する。 高度な技術および判定を必要とする救助行為に「対しては、高い得点が与えられる。」		
章扉	第8章	修正	章名の変更	「設備及び」器材の規格「と検査手順」	器材の規格	
8.(8.1.1.~8.1.16.)	ブル施設規格	修正	ブル施設規格	ブル施設の規格及び検査手順を大幅に修正。 *原文通り		
8.3.1.	バトン(ビッチフラッグス)	新規	器材検査手順	バトンの器材検査手順を追加。		
8.4.1.	ボード	新規	器材検査手順	ボードの器材検査手順を追加。		
8.5.2.	サーフポート	修正	サーフポートの規格	サーフポートの規格を追加。		
8.5.3.	サーフポート	新規	器材検査手順	サーフポートの器材検査手順を追加。		
8.6.1.	ブイ	新規	器材検査手順	ブイの器材検査手順を追加。		
8.7.	マネキン	修正	マネキンの規格	マネキンの規格を大幅に修正。 *原文通り		
8.7.1.	マネキン	新規	器材検査手順	マネキンの器材検査手順を追加。		
8.8.1.	障害物	新規	器材検査手順	障害物の器材検査手順を追加。		
8.9.	レスキューチューブ	修正	レスキューチューブの規格	レスキューチューブの規格を大幅に修正。 *原文通り		
8.9.1.	レスキューチューブ	新規	器材検査手順	レスキューチューブの器材検査手順を追加。		
8.10.	サーフスキー	修正	サーフスキーの規格	「幅」についての説明をさらに追加。		
8.10.1.	サーフスキー	新規	器材検査手順	サーフスキーの器材検査手順を追加。		
8.11.1.	スвимフィン	新規	器材検査手順	スвимフィンの器材検査手順を追加。		
8.12.1.	スローライン	新規	器材検査手順	スローラインの器材検査手順を追加。		
8.13.1.	水着	新規	器材検査手順	水着の器材検査手順を追加。		
8.14.1.	PFD	新規	器材検査手順	PFDの器材検査手順を追加。		
8.15.1.	ヘルメット	新規	器材検査手順	ヘルメットの器材検査手順を追加。		
8.16.1.	ウェットスーツ	新規	器材検査手順	ウェットスーツの器材検査手順を追加。		

節番号	箇所	種別	カテゴリ	2020年版変更点の詳細	2019年版の表記など	備考
章扉	付録A. 短水路プール競技	修正	元となる競技規則	ILSの正式版に準拠。 ILS Competition Rule Book, Short Course Pool Events, 2020 Edition	Short Course Pool Events, 2015-2019 Edition, Pilot version 1.0 Addendum - May.31, 2017	
A.2.	プール競技種目	追加	種目の追加	種目と距離の追加。 ・メドレーリレー - 4×50m *4×25mは変更なし ・プールライフセーバーリレー - 4×25m, 4×50m		
A.2.	プール競技種目	追加	短水路実施時の注意点	「注意：」が追加。		
A.2.2.3.	マネキンキャリア（短水路）	修正	マネキンの設置位置	25mの場合のマネキン設置位置が変更。 (胸部中央ラインの「上端」が12.5mラインにくるように置かれる。)	胸部中央の「横ライン」	
A.2.3.2.	レスキューメドレー（短水路）	修正	マネキンの設置位置	25mの場合のマネキン設置位置が変更。 (胸部中央ラインの「上端」が12.5mラインにくるように置かれる。)	胸部中央の「横ライン」	
A.2.5.1.	マネキントウ・ウィズフィン（短水路）	修正	ピックアップゾーンの範囲	「10m」	「5m」	
A.2.5.2.	マネキントウ・ウィズフィン（短水路）	追加	失格内容	失格が追加。		
A.2.6.1.	スーパーライフセーバー（短水路）	修正	ピックアップゾーンの範囲	「10m」	「5m」	
A.2.6.2.	スーパーライフセーバー（短水路）	修正	ピックアップゾーンの範囲	「10m」	「5m」	
A.2.6.4.	スーパーライフセーバー（短水路）	追加	失格内容	失格が追加。		
A.2.7.1.(a)	マネキンリレー（短水路）	修正	チェンジオーバーゾーン	「10m」地点から「15m」地点の間の「5m」のチェンジオーバーゾーン	「10.5m」と「14.5m」マークの間	
A.2.7.1.(b)	マネキンリレー（短水路）	修正	チェンジオーバーゾーン	「35m」地点から「40m」地点のチェンジオーバーゾーン	「35.5m」と「39.5m」の間	
A.2.7.1. A.2.7.2.	マネキンリレー（短水路）	削除		スタートゾーンとチェンジオーバーゾーン区間の具体的な場所の記載が削除。 *競技別規則とILS競技規則本文に拠る	A.8.1 h), A.8.2 h)を削除。(P.221, P.223)	
A.2.9.1.(a)	メドレーリレー（短水路）	修正	ピックアップゾーンの範囲	「10m」	「5m」	
A.2.9.1.(d), (e)	メドレーリレー（短水路）	修正	第3競技者の動き	レスキューチューブ「及び/又はクリップ」を掴むこと。 *クリップ部分が追加	溺者役はレスキューチューブの本体を掴まなければならない - 紐やクリップではいけない。	
A.2.9.2.	メドレーリレー（短水路）	新規	新種目の追加	4×50m短水路, の説明が追加。		
A.2.10.	プールライフセーバーリレー（短水路）	新規	新種目の追加	プールライフセーバーリレー - 4×25m, 4×50m短水路, の説明が追加。		
付録B.	ジュニア/ユース競技規則	新規	・ジュニア競技規則 ・ユース競技規則	ジュニア競技, ユース(中学生)競技, ユース(高校生)競技における, 一般規則と競技別規則を定めた。 ●一般規則 年齢区分, ハンドラー及びマネキンハンドラー, 器材, 競技者数の制限 ●競技種目 障害物スイム - 50m ジュニアチューブスイム - 50m レスキューチューブトウ - 100m レスキューチューブリレー - 4×50m ウェーディングレース ランスイムラン ニッパーボードレース ニッパーボードリレー タップリンリレー		